



一吟徹心霊  
一曲能興国

錦友…第309号

〈令和4年4月10日〉

・編集・  
一般社団法人詩吟朗詠錦城会  
・発行・  
一般社団法人詩吟朗詠錦城会  
東京都港区麻布十番2-4-14  
電話:東京03-5484-3301(代)  
〒106-0045

# 令和3年度第二回指導者講習・研修会 新型コロナウイルスの感染急拡大により 3回目の中止に

令和4年2月24日(木)〜25日(金)、からすま京都ホテルに於いて、指導者講習・研修会が開催される予定で、申し込みも締め切りが終わったところ、オミクロン株の感染が急拡大しました。1月の理事会の席上、実施

について検討がなされ、やむなく中止が決定されました。この3年間で、本部主催の行事が次々と中止になりました。

この経過について、土師城皓事務局長に投稿をお願いしました。(S)

## コロナ禍での 本会主催行事の中止について

新型コロナウイルス感染症は、2019年12月初旬に、中国の武漢市で第1例目の感染者が報告され、数カ月でパンデミックと言われる世界的な流行となりました。日本で初めて感染者が確認されたのは2020年(令和2年)の2月1日のことでした。その後、武漢市からのチャーター便での帰国者やクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」の乗船者の惨状をテレビ放映で見たとときでも、まだ大禍になるとは思ってもいませんでした。爾来、2年間に亘り新型コロナウイルス感染症に真摯に向き合い、可能な限りの感染回避策を続けていますが、日本はもとより、世界中も収束、あるいは

終息する様子はありません。本会(一般社団法人詩吟朗詠錦城会)は、この2年間で、主たる事業であります年2回の「指導者講習研修会」、「全国大会」が開催中止となりました。なお「定時総会」はコロナ禍、従来

の方式での開催はできず「書面議決」方式での総会とし、錦城会館にて総本部近隣の正会員の出席を頂き、定時総会が執り行われました。一方、令和2年2月、京都において開催予定の会報「錦友」発行300号記念師範吟詠発表会は261名の出吟申し込みがあり、発表を楽しみにしておりましたが、コロナウイルスのデルタ株が猛威を振るい、開催日

の6日前に中止しました。その後、6月の石川県での総会兼指導者講習研修会も中止し、9月26日開催予定の山口県での全国大会も、詩吟朗詠錦城流・錦城会創設以来初めてとなる中止となりました。

更に京都での指導者講習研修会は令和2年2月に引き続き、令和3年2月、令和4年2月も中止と致しました。令和3年6

月の石川県での総会兼指導者講習研修会もコロナ感染者数が下げ止まらず中止としました。これにより2年に延べ5回の講習研修会を中止したことになり、吟の発表の機会が無くなったことは大きな心の糧を失ったことになりました。

令和3年度の全国大会は9月に北海道函館市に於いて開催予定でしたが、北海道に緊急事態宣言が発出され、大会プログラムは出来あがって配布済みでしたが中止になりました。

### 朝日新聞 「天声人語」より 2022.3.4

ウクライナで戦死したロシア兵がスマートフォンに残したというやりとりが、国連総会で紹介された。どうして返事をくれないの、本当に訓練中なの、という母親の問いに兵士が返信し

その他、会は吟詠、詩舞、琵琶に関する合同事業として  
1. 吟道之碑顕彰と維持管理  
2. 日本伝統文化吟友会  
3. 二十一世紀詩歌朗詠懇談会  
4. 他会等との交流  
に参画事業として活動を行っていますが、やはりコロナ禍で2年間すべての事業が中止となりました

私ども、詩吟朗詠を志す者は日々詩吟朗詠の研鑽に励み、各々の地区において発表する場を得、その集大成として年1回の全国大会での発表の機会を得ることを常としていますが、コロナ禍においては、日頃の稽古場所も使用不可となり大変つらい時間を経験しております。

全国の会員の皆様と共にコロナ禍が一刻も早く終息し詩吟朗詠が再び出来るようになる時を待ちましょう。  
(錦城会事務局長 土師城皓)

ている。「ママ、訓練じゃないんだ。本当の戦争が起きている。怖いよ」「ぼくたちは町中を爆撃している。民間人まで標的にしている。歓迎されると聞かされていたのに」。ウクライナの大使が読み上げたこの内容が本当なら、戦場の真実を最もよく伝えているのかもしれない。  
(編集後記に続く)

# 福島県本部 コロナ禍での温習会

感染がようやく落ち着きを取り戻した中、宗範・山元錦隆先生をお迎えし、12月4日(土)令和3年度温習会を「おもてなし うおしん」で開催することができました。会員の半数が出吟し、小林徳行先生の尺八伴奏で堂々と吟ずる姿は、流石に錦城流を学んでいることに喜びを实感いたしました。

総師範の山本先生、大師範の石橋先生、野矢先生は加療中にもかかわらずご出席頂き、錦城流の真髓を吟ずる姿に参加者一同感銘を受けました。



宗範・山元先生からは、「出吟された会員の力強い吟声は心を打つものがありました。全国的

に開催が中止・延期の中、福島県本部が開催された事に感謝します。」との総評を頂いた後、「院庄(小林弘)を拝聴しました。その後、懇親会となり、コロナ感染防止上、カラオケ等自粛で静かな会食・歓談となりました。早速なコロナ終息を願い、更なる努力を誓い散会しました。」(福島県本部 芹澤城征)

## 新入会員の紹介 (11/1~2/26)

- 稲沢支部 河原涼子 西野多恵子 黒川文子
- 諫早支部 林田美幸
- 大津支部 藤橋喜久子
- 蒲生支部 門谷幸男
- 田平支部 松本慎吾
- 大口道場 尻屋チズ子
- 佐世保支部 橋本弘子
- 羽曳野支部 織田義勝 木原八咲子
- 湖南石部道場 橋本克枝
- 水戸支部 伊藤よし子
- 鹿兒島支部 角倉さくら
- 世田谷支部 朝倉正敏 柚木彩香 アルバナスジョージ

## 世田谷代田にて 斎藤茂吉歌碑除幕式に参加

古い「吟詠教本」あるいは「和歌朗詠集」の発行場所が東京都世田谷区代田三ノ五五ノ一六となっていると思う。広くない道路を隔てて小田急線が走り、近くに代田八幡神社がある。かつて、この八幡様の

参集殿で温習会や青年部の勉強会を行った。この本部の前の道を小田急線の線路と反対の方に行くと、バス通りがあり、昔、斎藤茂吉が住んでいた。私たちが本部に通う頃には新宿に越した後だった。斎藤茂吉が代田を詠んだ和歌は、次のようなものがある。

- 代田川のほとりに われをいこほしむ 柳の花もほほけつつ
- 刃かかへるわれの住む 代田の二階より白糖のごとき富士山が見ゆ
- 代田なる八幡宮の境内に われは来たりて まどろみいたり



東京世田谷代田にて (昭和23~24年)

斎藤茂吉の歌碑は、全国に一六三ある。(令和3年7月現在)その一四四番目が、平成25年3月21日、代田川緑道に建てられた。代田川とは、北沢川のこと、下ると目黒川に注ぎ、上流は国士館大学の下を流れている。昔は水が溢れた川は、今は暗渠となり、上は遊歩道、公園となっている。

歌碑は、環状七号線(環七)の都心側のほど近くにあり、桜の時期になると花見で賑わう一角にある。歌碑を建立しているとき、国士館大学公開講座を受けていた井上という方が、歌碑の除幕式の話を持ってきて下さり、宗家に作曲していただき、受講生全員で除幕式で朗詠した。

因みに、司会は近所に住む誼みで、なべおさみさんが担当して下さいました。(世田谷支部 草薢城輝)

## ◇組織体長の変更◇

米原支部(滋賀) 支部長 北村城啓

## ◆催事ののご案内◆ (令和4年4月~5年3月) ◆本会主催 ◆本会後援

- ◆滋賀県湖南地区吟詠大会 5月15日(日)
- ◆滋賀県能登川町 定時総会、第一回指導者講習・研修会 6月23日(木)~24日(金) 開催地未定
- ◆福岡県本部65周年記念大会・詩舞道錦城流福岡県50周年記念・岡垣支部30周年記念 9月4日(日)
- ◆福岡県北九州市 神奈川県本部50周年記念大会・丸山城社宗範3回忌追善 9月25日(日)
- ◆神奈川県横浜市 一般社団法人詩吟朗詠錦城会 全国大会 10月9日(日)
- ◆愛知県名古屋支部 滋賀県湖南地区・彦根支部発足65周年記念吟詠大会 12月4日(日)
- ◆滋賀県彦根支部 第二回指導者講習・研修会 3月2日(木)~3日(金) 開催地未定
- ◆世田谷支部(東京) 支部長 岩堀錦游

# 紫式部と小野篁(おののたかむら) 大椿山六道珍皇寺

小野篁は、母が亡くなった後、母を訪ねたところ、ひどい扱いを受けているのを見て、閻魔大王に直談判をして扱いを変えてもらった。それ以来、閻魔大王と昵懇になり、昼は朝廷の役人、夜は閻魔朝の役員を兼ねるようになった。篁が閻魔朝に行くとき通ったといわれる井戸が珍皇寺にある。



小野篁冥途通いの井戸

紫式部は、『源氏物語』で男女の色恋沙汰を事細やかに書いた。このようなふしだらな物語を書いた紫式部は、きつと地獄に落ちるだろうと人々は噂し合った。それを聞いた篁は、それではあまりに可哀想だ、何とかしてやらにや。と閻魔大王に掛け合った。閻魔大王は、「いいよ、わかかった。」と答えてくれたが、まだ心配だった篁は、紫野にある紫式部の墓の隣に自分の墓も作り入った。

墓のある紫野というと辺鄙なところというか、都会にあるとは思えなかったが、墓地のすぐ前にバス停があり、交通の便は至っていいし、門も垣根もない。なぜかは勿論わからないが、

紫式部のお墓に比べて小野篁のお墓は小さい。副葬品が少ないのだろうか？  
珍皇寺は、正式には大椿山六道珍皇寺という。六道とは、地獄、人間、天上など輪廻する六つの世界をいうが、この名前が付いているのは、この寺が盂蘭盆が始まる前の八月七日から十日の間、おしよらいさん(精霊・御霊)をお迎えするために参詣するからである。

各家でおしよらいさまをお迎えに行くのに、一緒に家には帰らないで、十三日までどこかをふらりふらり。  
・ ・ ・ 京都の盂蘭盆会 ・ ・ ・

京都の盂蘭盆の行事について、私の住む東京世田谷とは違うところがあるので、記してみます。おしよらいさまを七日から十日の間、珍皇寺にお迎えに行き、お盆の準備が始まります。

十三日の午前中、蓮の葉の上に、茄子・サツマイモ・胡瓜・ササゲを乗せてお供えします。午後、西に向けて線香に火を点け、おしよらいさまをお迎えします。おしよらいさまは、線香の香り、煙に乗って帰ってきま

す。お茶とスイカをお供えします。このとき一緒に「お盛り物(置き台)」に蓮の花、葉、干菓子をお供え、反対側に水菓子をお供えします。  
十四日のお膳。おはぎ・茄子・ズイキの煮物、湯葉と三つ葉のおすまし、茄子・ササゲの胡麻和え、カボチャの煮物、お茶。おしよらいさまと家族一緒に食事を作ります。そのあと、菩提寺他二件(寺)のお坊さんが来て供養します。

この間、門口に楊枝を刺した胡瓜と茄子を置きますが、胡瓜は馬に乗ってあの世から早く帰って来て欲しいからであり、帰りは茄子の牛に乗って、のんびり帰って欲しいからです。  
十六日には、長い旅でもおしよらいさまがお腹を空かさないうようお団子をお供えします。

世田谷でも墓参りに行き、十三日に迎え火を焚いて御霊をお迎えし、十六日には送り火を焚いてお送りしますが、京都では線香の煙でお迎えし、五山に送り火を焚いた煙でお送りします。私たちが大文字焼きとい

ているのは、五山の送り火のこ



五山の送り火

この時期、京都では千日詣や

## 健康十訓

健康は嬉しい美しい素晴らしい

何はなくても やっぱり健康

- 一 小肉多菜  
お肉ほどほど 野菜たっぷり 健康もりもり
- 二 小塩多酢  
塩分摂りすぎは 高血圧のもと 酢は健康のもと
- 三 少糖多果  
甘いものは果物から 砂糖は肥満への直通切符
- 四 少食多嘔  
腹八分でよく嘔みや 幸せも 嘔みしめられる
- 五 少衣多浴  
薄着で風呂好きの人は 健康を身につけている人
- 六 少言多行  
べらべら喋っている間に 行動を開始せよ
- 七 少欲多施  
自分の欲望のために走らず 他人のために走れ
- 八 少憂多眠  
くよくよしたって同じ とつとつ寝てしまおう
- 九 少車多歩  
自動車は確かに早い でも歩けば健康への近道
- 十 少憤多笑  
怒った時でも ニコニコしていれば忘れてしまう

# あの頃

私が入会した頃(昭和52年)、錦城会には「青年部」という組織があり、先輩方の応援を頂きながら、若者たちが活発に活動していました。

詩吟朗詠錦城会 五十年史より

錦城会として「次代を担う若者の育成」を目的に、昭和44年総本部の文化部内の一機関として設立され、当時は青年部員とは30歳以下の会員が対象であった。初代青年部長の草薨城輝氏の時、広島県の旧海軍兵学校「江田島」における第一回青年部吟行会は、青年部を全国に発信した画期的な催しであった。これを機に青年部未組織の道府県も、徐々にではあったが本体内に青年部が組織されるようになり、あわせて青年部の年齢も35

歳以下を対象とするようになった。

昭和48年、総本部の正式な独立機関として「青年部」が承認され、初代の全国青年部長として土師城皓氏が就任した。会における青年部活動は「次代を担う若者」の結束を第一に「親睦融和」をモットーに展開した。

まず、全国の青年部員が一堂に会す「第一回青年部全国大会」を昭和50年、東京にて開催した。次いで長崎、滋賀、鹿児島、神奈川、大阪、広島で開催され、中でも長崎では2回、滋賀では3回開催された。

また全国大会と各年開催を目標に、史跡・文化・歴史を探访する「全国青年部吟行会」も愛知、神奈川、福島、道南、東京、広島、大阪で開催し、部員の親睦融和に貢献した。(以上)

青年部活動に携わっていたあの頃は、全国にはこんなに青年部員がいるんだと感心し、全国大会・吟行会に参加することも楽しく、たくさん仲間も出来、詩吟が楽しくてたまらなかつたことを思い出します。

土田城紘氏が青年部長だった時から、各地の情報交換のため、青年部通信 錦青「北から南がけ」が、全国を4つの地区に分けて、1、4、7、10月号の年間4回発行されました。各地の青年部活動の様子がわかり、読むのを楽しみにしていました。その後、土田さんから私が青年部長を引き継ぎましたが、それから、原稿の督促(?)やら紙面

の作成・発送等々、楽しんでばかりはいられない状況になりましたが、今思い返せば楽しい時代でした。

残念ながら、今の錦城会には、青年部員に該当する会員が極めて少なく、会の組織としての青年部はなくなり、各都道府県本部には今も青年部活動が行われているところもありますが、私たちが経験したような、大変でも楽しい活動が経験できないことは気の毒に思います。以前のように、少しずつ少しずつでもいいので、青年部活動が活発になっていく事を願っています。

一人の兵士の視点から戦争への疑問をつきつづけるのが、ジャンソンの名曲「脱走兵」だ。フランスの作家ボリス・ヴィアンの手によるもので、召集令状を受け取った男がこんな手紙を書く。(大統領閣下/私は戦争はしたくありません/可哀相な人々を殺すために/生まれてきたからではないからです)脱走を決意し、大統領に求める。(血を流さなければいけないのなら/あなたの血をどうぞ)

<b>錦青 “北から南から”</b> 九州地区の青年部の皆さん、大会の準備で大変な思いをされています。錦青を大切にしてください。	
九州地区の青年部の皆さん、大会の準備で大変な思いをされています。錦青を大切にしてください。	錦青「北から南から」は、九州地区の青年部の皆さん、大会の準備で大変な思いをされています。錦青を大切にしてください。
九州地区の青年部の皆さん、大会の準備で大変な思いをされています。錦青を大切にしてください。	九州地区の青年部の皆さん、大会の準備で大変な思いをされています。錦青を大切にしてください。



<b>本部の動き</b> (3.11.26より) (4.2.28まで)	<b>12月3日</b> 常務理事会 <b>4月5日</b> 滋賀県本部の昇格審査 <b>11月13日</b> 茨城県本部の講習研修会と昇格審査 <b>19日</b> 神奈川県本部の講習研修会 <b>1月13日</b> 第3回最高指導者研修会 <b>2月2日</b> 理事会 <b>2月2日</b> 東京部・神奈川県本部の昇格審査
---	---

雅号	県名	取得日
松田城栄	(長崎県)	3.11.11
陣内錦枝	(佐賀県)	3.11.11
藤瀬錦光	(佐賀県)	3.11.11
吉崎錦英	(佐賀県)	3.11.11
陣川錦樺	(長崎県)	3.11.11
前田城勝	(長崎県)	3.11.11
中村城普	(長崎県)	3.11.11
田中錦楓	(佐賀県)	3.11.11
草野錦草	(長崎県)	3.11.11
古賀城光	(長崎県)	3.11.11
佐藤錦聖	(長崎県)	3.11.11
大西城衛	(福岡県)	3.11.11

## ◆新師範の紹介◆

大義のかけらもない侵略戦争を始めたあの大統領は、いつまで人殺しを命じつづけるのか。(二面の天声人語の続き)

## 編集後記

一人の兵士の視点から戦争への疑問をつきつづけるのが、ジャンソンの名曲「脱走兵」だ。フランスの作家ボリス・ヴィアンの手によるもので、召集令状を受け取った男がこんな手紙を書く。(大統領閣下/私は戦争はしたくありません/可哀相な人々を殺すために/生まれてきたからではないからです)脱走を決意し、大統領に求める。(血を流さなければいけないのなら/あなたの血をどうぞ)

- 餅原城継 (福岡県) 3.11
- 福澄城崇 (山口県) 3.11
- 後藤錦菜 (福岡県) 3.11
- 吉原城鷹 (広島県) 3.12
- 山田錦都 (広島県) 3.12
- 中島城成 (滋賀県) 4.1
- 近松錦亜 (滋賀県) 4.1
- 深尾錦綾 (滋賀県) 4.1
- 渡辺錦光 (茨城県) 4.1
- 北條城勝 (茨城県) 4.1
- 青木錦千歌 (茨城県) 4.1
- 杉原城芳 (茨城県) 4.1
- 金子城寛 (埼玉県) 4.1